

AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

大学図書館研究 (2008.12) 84巻:25～35.

旭川医科大学図書館改革のグランドデザインの策定
—経緯と概要—

小川 聡、浅野 泉、糸林真優子

旭川医科大学図書館改革のグランドデザインの策定

— 経緯と概要 —

小川 聡, 浅野 泉, 糸林 真優子

抄録：旭川医科大学図書館は、「図書館改革のグランドデザイン」を2008年3月に策定した。これは、大学図書館全般に係る文献資料、本学学生支援のための諸資料と、2007年11月に実施した利用者アンケートの集計結果をもとに作成した。

ここで策定された事業計画は、学長のリーダーシップのもとで、今後5年を目途に順次遂行すること、及びこの方向性が大学から認められていることが大きな特徴である。大学の図書館支援によりモチベーションを高めた図書館職員が、本学の教育・研究・診療支援の一助になれると期待される。本稿では、このグランドデザインの構想から策定までの経緯と、その概要について報告する。

キーワード：図書館改革，図書館運営，長期計画，アンケート，グランドデザイン

1. はじめに

旭川医科大学（以下「本学」という。）図書館では、2008（平成20）年3月に図書館改革のグランドデザイン（以下「グランドデザイン」と呼ぶ。）を策定し、公表した。本学では、2007（平成19）年7月に執行部が交代して以来、学長のリーダーシップで数々の事業や運営の方針を新規に策定したり、見直したりするなど、斬新な発想により大学の改革を進めているところである。グランドデザインを策定したのもその一環である。

グランドデザインという表現を、本学においては実施目標や事業方針という意味で用いているが、他の多くの大学・機関ではマスタープランや事業計画という表現を用いているようである^{1), 2), 3)}。ともあれ、国立大学が法人化されて以降は、PDCAサイクル（Plan-Do-Check-Act cycle）によって、まず目標や計画の設定を綿密に行ってから実行するという手法が取られているため、グランドデザインの策定は、昨今では目新しい試みとは言えないかもしれない。

本学は比較的小回りのきく小規模な単科医科大学であり、その図書館でグランドデザインを策定する意義は、①学内外へ図書館の存在と利便性をアピールすること、②当面の多岐にわたる改革のための計画をアピールすること、③未解決になっている課題の計画的な解決を図ること、の3点である。

グランドデザインの大きな特徴は、i) ここに盛り込まれた事業を完了させるまでの期間を比較的長い5年を目途に設定したこと、ii) ここに盛り込まれた事業全てについてその方向性が大学から了承されていること、の2点である。本稿では、その構想から策定までの経緯、概要について報告する。多くの大学や

機関など、とりわけ本学と同様な小規模大学の、図書館運営に参考となるのであれば幸いと考える。

2. 図書館改革への始動

2004（平成16）年4月以降、国立大学法人に配分される運営費交付金には効率化係数1%が適用され、各大学とも予算編成に苦慮している。本学も他大学同様、図書館資料費予算も増額が難しく、毎年高騰を続けている電子ジャーナルを含めた外国雑誌の購入費が増え続ける一方で、学生用図書費へ十分予算が回りにくい。学長は、2007（平成19）年4月、学長選考にあたっての意向聴取（有権者による投票）に先立って発表したマニフェストで、図書館の充実（蔵書、パソコンの整備）を公約の一つとして明確にした。これがグランドデザイン策定のスタートであった。

学長は、本学の第1期卒業生である。大学新設時の決して十分ではない大学環境や生活を経験したため、今の学生に対して、出来る限り良い生活環境で勉学に励んでもらいたいという、思いやりや強い意向を持っている。そこで、5つの公約の1つの「教育体制の改革」の中に、学生に対して温かい対応をすることに付随して、勉学への支援に必須である図書館の充実<図書やIT社会へ対応するためのパソコンを増やす>を盛り込んでいた。

学長は就任早々、マニフェストと各部局からの所管事項説明をもとに、本学の教育・研究・診療に係る様々な課題について矢継ぎ早に改善方針を掲げ、改革に着手していった。過密な日程の中、図書館を見学した学長は、図書館長からの説明を受けつつ、

以下の指示を即座に下した。①利用者用パソコンを増設すること、②地域医療に関する多様な資料を配した新コーナーを新設すること（のちの「地域医療書コーナー」）。

また、図書館長（専門は、医学史・医療史で、新学長が任命）が新たな事業として提案した、③古文書展示（のちの「医学古文書（メディカル・アーカイブス）展示」）に賛同し、それに要する施設・設備を整備することを指示した。このコーナーは即時設置され、8月に開催されたオープンキャンパスにおいて、本学名誉教授から拝借した有名な『解体新書』などを展示し、参加者から好評を博した。

さらに、学長は図書館の現状や多くの課題に対し大いに理解を示すとともにその応援を約束し、④図書館の全面的な改革を見据えたグランドデザインを策定すること、それに先だって利用者を対象とした、⑤図書館利用者アンケート（以下「アンケート」という。）を実施することを指示した。

3. 図書館利用者アンケートの実施

3.1 アンケートの準備

グランドデザインは、本学図書館が今後へ向けて発展していくための基本方針であり、利用者に対しての約束でもある。したがって、盛り込むべき内容は、大学図書館にとっての必須事項であって、しかも利用者の要望を十分に踏まえたものでなければならぬ。そこでアンケートを実施し、その結果をグランドデザイン作成に反映させることが重要であるとの基本的な考え方のもとに、図書館では早速アンケートを実施することにした。

図書館の意思決定機関である図書館委員会（委員長を図書館長とし、委員は、教授または准教授9名と事務職員2名からなる。）では、2007（平成19）年9月に、アンケートの目的、実施体制、時期などを決定した。これに基づき、委員会内にアンケートの企画、実施と結果の集計・分析を行い、加えてグランドデザインの策定案を作成し、図書館委員会に答申する「利用者アンケートワーキンググループ」（以下「WG」と呼ぶ。）が編成された。

このWGは、図書館長と4名の図書館委員からなり、2007（平成19）年10月から2008（平成20）年2月まで3回の会議や電子メールによる意見交換などの活動を行った。

本学図書館では2003（平成15）年にも、全ての利用者を対象としてアンケートを実施した⁴⁾。これは図書館の自己点検評価のために実施したものであったが、当時は大規模なアンケートの経験が皆無であったため不慣れで、取りまとめや集計に莫大な

時間を要した。今回はこれらの経験を活かし、「グランドデザインを策定するため」という目標を中心に据えて、「改善を要する点を明確にする」というスタンスを重視し、その観点から設問を絞り込むこととした。利用者が現在の図書館に満足しているかどうか、していないならば、それはどの部分かを自由に記載してもらえるように設問作成を進めていった。具体的には下記の手順である。

i) 前回のアンケート調査票の設問を分解し、①蔵書構成に関するもの、②設備に関するもの、③サービスに関するものに区分けした。その上で、各設問を現在の図書館の事情にあわせてアレンジしたり、グランドデザイン策定という目標にあった設問項目を新たに設定したりした。この作業は、図書館の実情や利用者の要望についてなるべく多岐にわたって具体的に想定できるように、図書館職員が全員で行い、かなりの数の設問が提案された。

ii) 前項 i) で挙げられた設問を一つずつ検討していき、同じようなことを訊いていると判断されたものは統合したり、グランドデザイン策定に向け不要と判断されたものは省いたりしながら、さらに編集していった。この時最も心がけたのは、回答者の大半が学生であることから、出来る限り回答しやすい設問にすることである。つまり質問の意図や選択肢について、悩んだり考え込んだりすることなく一瞬の判断で回答可能なものを目指した。これは、質問を読んで最初に頭に浮かんだ考えを反映させてもらうためと、短い回答時間で済むようにするためである。

iii) ここまでの過程で図書館職員が何度か検討を重ね、アンケート調査票のたたき台が出来上がった。A3版1枚の表裏両面を使い、基本的に選択方式のアンケートである。選択肢にない回答や要望・意見の記入をする場合のために自由記載欄も設けた。

2007（平成19）年10月24日（第1回）、WGにおいて、図書館職員の作ったたたき台を検討した。「図書は分野別だけでなく配架場所を併記した方がイメージしやすい」、「この質問内容では答えにくい」や「もっと具体的な設問が必要だ」など、図書館職員では気付きにくい指摘や、利用者の立場からの指摘が活発になされた。それらの意見を反映し、最終的なアンケート調査票（案）を確定した。

2007（平成19）年11月6日、図書館委員会の審議を経てアンケート調査票（図1）が了承され実施の運びとなった。

平成19年11月 日

旭川医科大学図書館利用者アンケート調査票

このアンケートは、現在進められている図書館グランドデザインの中に、より利用しやすく、より有益な図書館を構築するための資料として用いられます。皆さまの意見が、今後の図書館改革の貴重な資料となりますので、それぞれのテーマに対しての率直かつ建設的なご意見をお願いします。

*** 利用者 ***

問1 所属・学年を伺います。
 1. 医学科 _____ 年生 2. 看護学科 _____ 年生 3. 大学院生 (博士課程 ・ 修士課程)
 4. 専任教員 5 非常勤教員 6. 医員・研修医 7. 看護師 8. 事務職員 9. 技術職員
 10. 非常勤職員 11. その他 _____

問2 図書館を利用する目的について伺います。(複数回答可)
 1. 雑誌の利用 2. 図書の利用 3. 事典・辞書類の利用 4. 視聴覚資料の利用
 5. 新聞の利用 6. 学外への文献複写申込み 7. 館内パソコンの利用 8. 複写室の利用
 9. 試験勉強及びレポート作成 10. 教養や趣味 11. 休憩 12. 全く利用しない
 13. その他 _____

問3 どの程度図書館を利用していますか。
 1. ほぼ毎日 2. 週に1、2度 3. 月に1、2度 4. ほとんど利用しない 5. 全く利用しない

問4 学内の身近な所(図書館以外)に自由に利用できるパソコン(私物も含め)がありますか。
 1. ある 2. ない

問5 電子ジャーナルの利用頻度はどの程度ですか(館外からのアクセスも含む)。
 1. ほぼ毎日 2. 週に1、2度 3. 月に1、2度 4. ほとんど利用しない 5. 全く利用しない

問6 他の大学図書館を利用されたことがありますか。
 1. 本学図書館が初めての利用
 2. 他の大学に所属して利用したことがある (材料: 氏名/姓): _____
 3. その他 _____

*** 資料(図書・雑誌等) ***

問7 図書館で所蔵している資料の種類別に満足度を伺います。

1階	雑誌		満足 ← 普通 → 不満 (5段階)					ご意見欄	
			5	4	3	2	1		
	1	医学系の専門雑誌	5	4	3	2	1	N	
	2	看護系の専門雑誌	5	4	3	2	1	N	
	3	医学・医療・看護周辺分野の雑誌	5	4	3	2	1	N	
	4	物理・数学などの雑誌	5	4	3	2	1	N	
	5	総合科学雑誌	5	4	3	2	1	N	
	6	新聞類	5	4	3	2	1	N	

1

問10 図書館ホームページは、どのページを主に利用していますか。(複数回答可)
 1. お知らせ 2. 利用案内(開館カレンダー・図書館概要等) 3. 電子ジャーナル
 4. 蔵書検索(OPAC) 5. 図書館資料情報(学術雑誌目録・新着図書等)
 6. 学術文献情報(学術文献データベース) 7. 検索検索 8. 学術サイトリンク集
 9. AMCOR(旭川医科大学学術成果リポジトリ) 10. 利用したことがない

問11 図書館ホームページは、使いやすいと思いますか。
 1. 使いやすい 2. 使いにくい 駄: _____
 3. わからない

問12 開催してほしい図書館のガイダンスは何ですか。(複数回答可)
 1. 図書館の概要 2. 文献の探し方 3. 蔵書検索(OPAC)の利用方法
 4. 学術文献データベースの利用方法 5. 電子ジャーナルの利用方法 6. 希望なし
 7. その他 _____

*** 施設・設備 ***

問13 インターネットと接続されたパソコンを8台増設し、16台のインターネット・情報検索コーナーとして独立させました。このことを知っていますか。
 1. すでに使っている 2. 知っているがまだ使っていない 3. 知らなかった
 ※インターネット・情報検索コーナーについて、何かご意見がありましたらご記入ください。

問14 カウンター式(立ち席)パソコンコーナーにスタンドワークチェアを設置したことを知っていますか。
 1. すでに使っている 2. 知っているがまだ使っていない 3. 知らなかった
 ※カウンター式(立ち席)パソコンコーナーについて、何かご意見がありましたらご記入ください。

問15 地域医療に貢献する大学にふさわしく、地域医療に関する図書を充実させていく予定です。新しく2階に「地域医療書コーナー」が設置されたことを知っていますか。
 1. 図書を渡込んだことがある 2. 知っているがまだ読んでいない 3. 知らなかった
 ※地域医療書コーナーについて、何かご意見がありましたらご記入ください。

3

電子的資料		満足 ← 普通 → 不満 (5段階)					ご意見欄
		5	4	3	2	1	
1	電子ジャーナル	5	4	3	2	1	N
2	学術文献データベース	5	4	3	2	1	N

2階	図書		満足 ← 普通 → 不満 (5段階)					ご意見欄	
			5	4	3	2	1		
1階	図書	1	解剖学・生化学などの基礎医学資料	5	4	3	2	1	N
		2	内科・外科などの臨床医学資料	5	4	3	2	1	N
		3	看護学資料	5	4	3	2	1	N
		4	心理学・社会学・物理学などの一般教養系資料	5	4	3	2	1	N
		5	音楽・芸術などの一般教養系資料	5	4	3	2	1	N
		6	英語・ドイツ語・中国語などの語学資料	5	4	3	2	1	N
		7	文学などの読み物	5	4	3	2	1	N
		8	広辞苑・医学大辞典などの辞典・事典類	5	4	3	2	1	N
		9	ビジネス書などの生活に役立つ資料	5	4	3	2	1	N
		10	新書や文庫本	5	4	3	2	1	N
		11	書店で売れている本:ベストセラー	5	4	3	2	1	N
2階	雑誌	1	映画や旅行・ファッションなどの雑誌	5	4	3	2	1	N
		2	科学系の一般雑誌	5	4	3	2	1	N
		3	パソコン関係雑誌	5	4	3	2	1	N
2階	視聴覚	1	DVD資料	5	4	3	2	1	N
		2	ビデオ資料	5	4	3	2	1	N

*** サービス(貸出・複写・職員等) ***

問8 貴重な図書の汚損を防ぐため閲覧室内では飲食全面禁止になっていることを知っていますか。
 1. 知っている 2. 知らなかった
 ※飲食全面禁止に対するご意見がありましたらご記入ください。

問9 図書館職員の利用者対応は、適切になされていると思いますか。
 1. 適切である
 2. 不適切である 駄: _____
 3. わからない

2

*** その他 ***

問16 カウンター前のスペースを整備して「医学古文書(メディカル・アーカイブス)コーナー」が設置されたことを知っていますか。
 1. 見たことがある 2. 知っているが見たことはない 3. 知らなかった

問17 8月3日(金)に行われたオープンキャンパスの催しとして「医学古文書展示」を行いました。8月6日(月)から8日(水)までは一般公開も行いました。このことを知っていますか。
 1. 実際に見た 2. 知っていたが見なかった 3. 知らなかった
 ※見に来られた方は、展示物の感想をお聞かせください。

問18 「医学古文書(メディカル・アーカイブス)コーナー」では、9月12日(木)から10月末まで「レオナルド・ダ・ヴィンチ 解剖手稿」の展示を行いました。このことを知っていますか。
 1. 実際に見た 2. 知っていたが見なかった 3. 知らなかった
 ※見に来られた方は、展示物の感想をお聞かせください。

問19 図書館にもっと力を入れて取り組んでほしいと思うことは何ですか。
 (1番~5番まで優先順位を付けてください)
 [] 冷暖房を完備してほしい [] 座席を増やしてほしい
 [] 図書を増やしてほしい [] 印刷体雑誌を増やしてほしい
 [] 事典・辞書類を増やしてほしい [] 電子ジャーナルを増やしてほしい
 [] 学術文献データベースを増やしてほしい [] 各種のガイダンスを増やしてほしい
 [] パソコンを増やしてほしい [] ホームページを充実させてほしい
 [] セミナー室を増やしてほしい [] 騒音の無い席を増やしてほしい
 [] (虫などの)排除を徹底してほしい [] その他 _____

問20 大学図書館以外の図書館(市立図書館など)に行ったことのある方に伺います。その図書館と比較し、本学図書館に関してお気づきの点がありましたらお書きください(企画・資料・サービスなど具体的に)。

問21 その他、図書館に対してご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

4

図1 アンケート調査票

3.2 アンケートの実施

アンケートは、2007（平成19）年11月に2週間にわたり実施した。学部学生への実施は、講義の担当教員にあらかじめ協力を請い、授業時間を10分ほど割いていただき、図書館職員がその場でアンケートの目的を説明し、配布と回収を行った。本学には、医学科6学年と看護学科4学年の計10学年が在籍している。アンケートの配布・回収に赴く回数も臨床実習中の医学科5年生を除く9回となり、協力してもらえた講義の時間も場所もばらばらであったため、本来業務との時間調整を行いつつ図書館職員総出で行った。時間を割いてくれた教員からも協力を得られ、あたかも講義の一環のような感覚に陥ったためか、まじめに書き込む学生が多く、ほぼ100パーセントの回収ができた。医学科5年生は学生有志が配布・回収に協力してくれたが、他の病院で実習中であったため回収率は他の学年に比べて劣ったのが残念であった。

職員に対しては、所属別に設けられた学内郵便ボックスへ図書館長名による依頼文とともに投函し、回答後の用紙は図書館に持参してもらうか図書館及び学内数カ所に設置した専用回収ボックスに投函してもらう形を採った。前回の経験から、回答には積極的に協力してもらえないのではないかと懸念していたが、実際決して高いものではなかった。しかし、期限を過ぎてからも回答が寄せられ、しかもその中には集計外としてしまうには惜しいような熱心な回答もあって、十分に参考になり得る結果が得られたと判断している。

3.3 アンケートの集計と分析

アンケートの取りまとめは図書館職員全員が分担で行うこととし、使い慣れたMS Excelを使用した。集計や分析が容易になるよう、回答用紙に通し番号の付与や所属別の仕分けをしてから、データ入力作業を開始した。前回の反省からアンケート調査票の設問もできるだけ番号選択式にするなど、事前の準備を十分に行っていたので、簡単に入力できるはずであった。しかしいざ入力作業を始めてみると、条件に外れた想定外の回答（チェックの個数が指定より多すぎるなど）も少なくなく、最初から若干の混乱があった。しかし、その都度、入力者間でぶれが出ないように、回答の解釈や取捨選択の基準を統一するために話し合いを重ね、最終的に客観的なデータが得られるよう努めた。その他、自由記載欄に、設問に該当しない回答が記入されていたり、記載された内容が判然としないものがあったりして、今後アンケートを実施するとすれば、もうひと工夫が必要

だと実感した点も少なくなかった。

2007（平成19）年12月27日、WGが、アンケート結果の集計・分析について検討を行った。その検討の過程で、どのような切り口でデータを提供することが必要か、どのような表現方法が望ましいか、などについて議論や試行錯誤を重ねながら、一覧表形式から、最終的にはグラフを利用した視覚的に理解しやすい形に加工していった。

2008（平成20）年1月24日、アンケート結果の集計・分析が終了し、アンケート集計結果（案）がWGにおいて検討され、報告として出来上がった。

その集計結果は現在当該サイトからも参照できるが、ここでその概略について述べておく。アンケートで寄せられた要望を次の3つの項目に大別する。

i) 施設・設備

室内環境については、室温の調整や照明設備の改善に関する意見が多かった。たとえば、「冬期間の室温調節ができない」、「室内が暑すぎる」、「室内の場所ごとに温度の格差が大きい」、「室内が乾燥している」などの意見は、図書館では対処できず、管理部署による調整が必要であることが判明した。これらの利用環境の改善は早急なる対応が必要だとわかった。さらに、夏季期間における冷房装置の運用方法についても取り決めが必要であることがわかった。

ii) 蔵書構成

蔵書構成についての意見では、「新刊が少ない」という意見が多かった。また、「一般教養書や非専門書（気軽に読める図書）が少ない」という意見も見られた。この要望を寄せた利用者自身が、本学は医学部単科大学のため仕方がないと諦めている様子も見受けられた。この問題は即座に解決出来るものでもないが、旭川市の公共図書館との連携を模索するなどの方法を含め検討することになった。

iii) 図書館ホームページ

アンケートでは、図書館ホームページへの意見も募ったが、「使い易い」という意見と「使いにくい」という意見に二分された。この点は、よく使うメニュー項目をトップ画面に集約させているため、ある程度常連の利用者には使い勝手が良いが、不慣れた利用者、初めての利用者にはわかりにくいのかも、と分析した。ホームページには、シンプル、利用しやすい、親しみやすいなどの要素が必要であるから、改善に向けリニューアルを検討することとした。また、現在は日本語のみの構成であるが、年々増加する留学生や本学への留学を予定している海外の学生への情報提供、さらには国際貢献の意味からも英語での案内が必要であるとの認識をあらた

めて持った。

2008(平成20)年2月7日、図書館委員会にアンケートの集計結果を報告した。学外に発表するためのいわゆるダイジェスト版(自由意見は主題ごとに整理)と、自由意見を含むすべてを一覧出来るようにした詳細版との2種類である。前者を図書館ホームページで公開することが了承され、即時公開された⁵⁾。ちなみに2008(平成20)年8月31日までに、総計1,386件(学内:161件,学外:1,225件)のアクセスがあった。このアンケート集計結果が、ランドデザインの基盤となっている。

4. グランドデザイン策定の経緯と骨子

4.1 基本構想作り

アンケートの実施・集計とほぼ同時進行で、ランドデザイン策定の準備が進められた。

ランドデザインを策定することができれば、今後の図書館事業やサービスなどは、全てこれに沿って実施していくことになる。図書館は、主として学生と職員のための施設であり、これまで利用者の要望には十分応えてきたつもりであるが、長期的かつ体系的な展望に立っていたとは言い難い。このランドデザインを策定したならば、本学図書館の目指す将来的な姿が明確になる。これまで潜在的であった要望を、アンケートに示された顕在的な意見として出来るだけ多く盛り込むことにより、今まで以上に迅速に要望にも応えられることが期待された。

まず、①文部科学省からの関連政策文書⁶⁾、②図書館情報学の専門家の手になる最新の文献^{7), 8), 9), 10)}、③本学学生支援のための資料(2007年10月に策定された旭川医科大学教育改革のランドデザイン)¹¹⁾の中から取捨選択し、内容を検討した。また、④アンケートの集計結果から利用者の要望事項をその人数や重要度を考慮しつつ抽出し、「利用したい図書資料の種類について」、「館内の環境・施設・設備について」、「図書の配架や検索について」など、いくつかの項目に分けた。

現在の大学図書館は、電子ジャーナルや学術情報データベースの増強を行い、研究・教育支援に努めている。一方、学生用図書や学習環境の整備などにより学習支援の充実も推進しなければならない。こうしたハード面での充実に加えて、サービスを展開する図書館職員の確保や育成も、ソフト面で重要要素である。そういった観点もランドデザインに反映させることとした。利用者サービスへ直接反映できるデータも、アンケート集計から得られたものである。

4.2 アンケート集計結果の反映

アンケートは、図書館の現状と課題について把握し改善を図るための格好の題材となる。アンケートから得られた学生・職員からの様々な意見・要望を参考に、図書館としてできること、できないこと、または大学として解決しなければならないことなどに分類しながら検討を重ねた。要望は多岐にわたっており、飲食の全面解禁など学生の身勝手な要望もあったが、それらも裏返せば図書館で快適な時間を過ごしたいという希望から発せられたものである。学長が要望する「学生に快適な図書館を」に沿えるよう、全ての意見に慎重に目を通して分析しながら、ランドデザインへ盛り込む準備を進めた。ランドデザインは、建学の理念や大学運営方針に沿うことが重要であろうが、アンケートから得られた意見も貴重であり、ランドデザイン策定のための重要な要素である。とはいえ、要望事項(=不満に思っている事項)は千差万別で、まとめきれないほど内容が豊富であり、自ずと取捨選択が必要となった。教員の教育・研究・診療の支援を増強しながらも、何より学生を主なターゲットとして快適性や利便性を高める必要がある。特に、単科の医科大学であることを意識した方策が必要であるし、小規模であることから身の丈にあった整備が必要とされる。こういった観点を重視してアンケート集計結果をランドデザインに反映させていくこととした。

4.3 グランドデザイン検討から完成まで

図書館情報学の専門家が著した文献の収集・整理や、アンケートの取りまとめが一段落してくると、漠然とはあるがランドデザインに盛り込むべき内容を想定することができ始めるようになった。いよいよ作成に着手する段階である。

ランドデザイン策定までの経緯については、この後は時系列で述べていくこととする。この過程は、図書館職員検討(未定稿)→WG検討(原案)→図書館委員会審議(原案)→大学運営会議審議(原案)→教育研究評議会審議(原案)→教授会報告(原案)→パブリックコメント聴取→WGで聴取意見の調整(最終案)→図書館委員会審議(最終案)→大学運営会議(最終案)→教育研究評議会(最終案)→策定→教授会報告、という本学の正式な審議経過を経ることになる。ここで登場する審議機関と学内組織との関係を含めた流れについて図示する(図2)。

i) グランドデザイン(未定稿)の作成

ランドデザイン(未定稿)の構成は、①改善の観点、②大学図書館のバックグラウンド、③アンケートからわかる現実、④図書館のランドデザイ

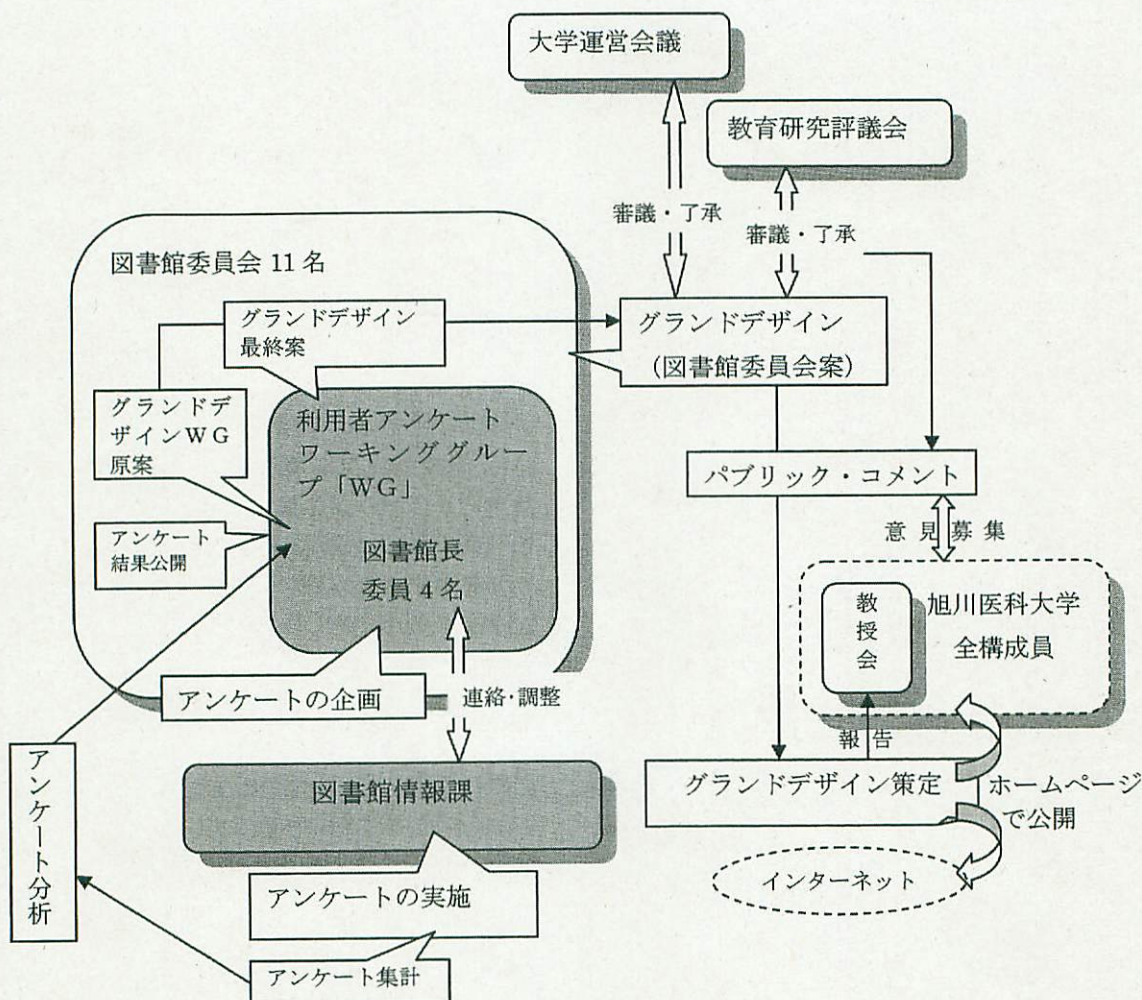


図2 グランドデザイン策定までの流れ

ン、の4章からなっていた。これは、大学図書館を取り巻く様々な要件やアンケートの結果を重視して図書館運営に活用していくコンセプトを備えたものではあったが、極めてシンプルなものであった。

ii) グランドデザイン (WG原案) の作成

グランドデザイン (未定稿) にはインパクトが不足していたので、アンケート集計結果をより具体的に盛り込んでいくことにした。また、この時まで、目次、見出し項目を加え、課題部分を大幅に改善した。タイトルも「旭川医科大学図書館改革のグランドデザイン」(WG原案) となった。

ここまでのグランドデザイン (WG原案) を実行可能とするために、整備すべき施設や設備についての具体的なイメージや、必要経費の概算、スケジュールなどについても確認と検討が行われた。これらに係る調査を行い、説明用資料を作成することの必要性が指摘されたため、早速準備にかかり、資料案を次回図書館委員会で審議することとなった。

iii) グランドデザイン (図書館委員会原案) の作成
前述の通り2008 (平成20) 年2月7日開催の図

書館委員会において、アンケート集計結果が報告され、図書館ホームページでの公開も了承された。グランドデザイン (WG原案) については、本文中の字句や文言について指摘を受けたのみで、説明用資料とともに図書館委員会原案として了承された。

グランドデザイン (図書館委員会原案) は、この後、全学的にオーソライズされるよう、大学運営会議 (学長、副学長、図書館長から構成される本学の実質的な意思決定機関) 及び教育研究評議会での審議を経る予定となった。

2008 (平成20) 年2月12日、グランドデザイン (図書館委員会原案) が大学運営会議で審議・了承され、教育研究評議会に諮られることになった。

2008 (平成20) 年2月13日、グランドデザイン (図書館委員会原案) が教育研究評議会にて審議された。評議員からの意見聴取と学内構成員からのパブリックコメントを聴取した上で、グランドデザインの完成を目指すことで了承された。

2008 (平成20) 年2月13～19日が評議員意見聴取期間とされ、また、2008 (平成20) 年2月20～

27日がパブリックコメント受付期間とされた。図書館のホームページ上においてグランドデザイン（図書館委員会原案）を、学内全構成員（学生を含む）からパブリックコメントを募集するためと明記したうえで公開した。

公開はわずか1週間であったが、「図書館の増築について」、「図書館ホームページに英語版を装備すること」、「データベースの整備」などの要望や、本案が大学の方針として掲げるにふさわしい表現になるよう文書の表現方法や文言の統一についてのアドバイスなど、合わせて7件の意見や要望が寄せられた。

これらの意見についてすぐさまWGで検討を行った。内容を吟味し、表現方法についても検討し、グランドデザインに新たに盛り込むべき内容とすべき旨の提案を図書館委員会に答申することとした。

アンケートにおいては、図書館の業務は何か、具体的に何をやっているのか分からない、などの意見も寄せられていたこともあって、グランドデザインには余り関心が持たれていないのでは、と危惧していたが、パブリックコメントを含め学内各部署からこれだけの関心を寄せていただけたことがわかり、感謝の念を強くした。また同時に、注目されていることを励みに、より利用者のためになる図書館作りを行わなければならないという実感も湧き、図書館職員一同、身の引き締まる思いで完成度の高いものを目指した。

iv) グランドデザイン(図書館委員会最終案)の作成
2008(平成20)年3月4日の図書館委員会において、学内パブリックコメントからの要望事項7件をグランドデザインに盛り込む件について審議し、全て盛り込むことで了承された。また、グランドデザインも、策定後に図書館ホームページ上で公表することが了承された。ここで、グランドデザイン(図書館委員会最終案)が作成され、完成へ向けての最終段階へ入る。

2008(平成20)年3月11日の大学運営会議において、グランドデザイン(図書館委員会最終案)が審議・了承され、教育研究評議会に諮られることになった。

v) グランドデザインの完成

2008(平成20)年3月12日の教育研究評議会において、グランドデザイン(図書館委員会最終案)が審議・了承された。ここで、『旭川医科大学図書館改革のグランドデザイン』は完成し、今後5年を目途に本学図書館が実施すべき事業を学内外に明らかにしたのものとしてオーソライズされたことになる。

2008(平成20)年3月19日の教授会において、グランドデザインが策定された旨、図書館長から報告され、名実ともに学内で公認を受けた。

こうして完成したグランドデザインは、図書館ホームページから公開しているが¹²⁾、2008(平成20)年8月31日までに総計1,185件(学内:214件、学外:971件)のアクセスがあった。

4.4 骨子について

グランドデザインは7章からなる(図3)。第1章の序から始まり、第2~4章には、参考とした文部科学省の諸報告、図書館情報学の専門家の手になる文献、本学の教育改革のグランドデザインについてそれぞれ骨子が述べられている。第5章は、グランドデザインの重要部分を形成したアンケートの集計結果についての概観である。そして、全体の約半分を占める第6章が、グランドデザインの内容そのものである。最終の第7章まとめには、今後実践していくべき事業の内容が集約されている。この最終章について、2008(平成20)年度予定事業を中心に概略する。

(1) 図書館の施設・設備・利用環境の整備・向上について

- i) 電動書架に保存された最古の学術雑誌バックナンバーを図書館外に移転すること。
- ii) 図書館1階入口付近のロビースペースを図書館内に取り込み、閲覧室及び書架を設置するスペースとして活用する計画を立てること。
- iii) i)とii)に基づき図書館内スペースが有効活用できるよう、カウンター、閲覧・学習スペース、セミナー室などの施設・設備を含めた全レイアウト変更を検討すること。
- iv) 冷暖房装置により制御される室内温度・湿度・換気の適正化、照明の改善、及びトイレの衛生状態の改善を含め、設備整備などを実施すること。

(2) 学習用図書、地域医療書、雑誌資料(電子ジャーナルを含む)や学術データベースの整備・充実について

- i) 2007(平成19)年度調査により図書館委員会で決定した、新規の外国雑誌や国内雑誌を購入すること。
- ii) 通例の図書除却処理に加え、出版から一定期間を経た開架書架の一般教養書(2008年度計画)と医学・看護学関連の専門書(2009年度計画)も調査の上除却処理を行うこと。
- iii) 例年の学生用図書の選定・購入とは別枠で、学習に必要な新刊の医学・看護学関連の専門

旭川医科大学図書館改革のグランドデザイン（抜粋）

～「競争的環境の中で個性輝く図書館」を目指して～

平成20年3月 旭川医科大学 図書館委員会

目次

- I グランドデザイン策定に当たっての基本的視座
- II 大学図書館全般の課題
 - －文部科学省からの関連政策文書をもとに－
- III 大学図書館関連の文献に学ぶ今後の指針
- IV 本学図書館に期待される学生支援の具体例
 - －本学教育改革グランドデザインをもとに－
- V 利用者アンケートの結果から探る本学図書館の現状と課題
- VI 改革のグランドデザイン
 - (1) 改革の規模・経費と優先順位
 - (2) 施設・設備・利用環境の充実・向上
 - ① 閲覧・学習スペースの充実
 - ② グループ学習スペースの充実
 - ③ 検索用パソコンの充実
 - ④ 書庫スペースの確保
 - ⑤ 衛生環境の一層の向上
 - (3) 図書資料の充実
 - ① 学生用図書資料の充実
 - i) 学生用参考図書・学生購入希望図書などの充実
 - ii) 新書・文庫などの廉価本の充実による新情報・新知見のスピーディな提供
 - iii) 地域医療書コーナーの整備・充実
 - iv) 選書ポリシーの確立
 - ② 研究者用電子資料の充実
 - i) 電子ジャーナルの充実
 - ii) 学術データベースの充実
 - (4) サービス・広報活動の充実
 - ① 図書館利用規程等の検討
 - ② 利用者モラル向上のための啓発と新たなペナルティの検討
 - ③ 図書館スタッフによるリテラシー教育の充実
 - ④ 展示事業の推進
 - ⑤ ホームページなど図書館ポータルの充実
 - ⑥ その他の図書館サービスの検討
 - (5) 地域連携の推進
 - ① 地域医療機関への文献情報提供の充実
 - ② 地域医療従事者への24時間開放の推進
 - ③ 旭川市図書館との連携
 - (6) その他
 - ① 学術成果リポジトリ（AMC o R）の充実
 - ② 図書館職員の研修・研鑽の充実

VII まとめ

【目次のページ】

VII まとめ

以上のとおり、改革すべき課題は多岐にわたるが、学生および研究者双方の図書館へのニーズは高まることはあっても決して低くはならない。そして今後、大学間はもちろん、図書館間における競争的環境もいっそう強まるであろう。したがって利用者からの様々なニーズや図書館を取り巻く諸環境へ十分対応できる体制や体質を強化する必要がある。さらに、提供サービスの充実や新事業へ取り組むためにも、常に適切な予算措置を行っておくことも求められる。本学図書館がその個性を活かしながら最優先で取り組むべき課題は以下の事項であることを確認し、まとめとする。

- (1) 閲覧・学習・書庫スペースを確保し、冷暖房・換気を含めた衛生環境を充実させ、図書館の施設・設備、利用環境を整備・向上させること。
- (2) 学生のための学習用図書・地域医療書や、研究者にとって研究・診療に不可欠な雑誌資料（電子ジャーナル含む）や学術データベースを整備・充実させること。
- (3) 学術情報リテラシー教育支援の充実や図書館ポータル向上を図り、図書館の有効活用について広報する機会や図書館の事業を周知する機会を増やすように努めること。
- (4) 旭川市図書館との連携を図り、一般教養図書などに対する要望に応えるとともに、地域社会に一層貢献すること。
- (5) 図書館サービス全般を支える図書館職員の研修や研鑽を強化し、意欲や志気の高揚に努めること。

【まとめのページ】

図3 グランドデザインの抜粋（目次・第7章まとめ）

書を購入すること。

- iv) 医学・看護学関連の新書・文庫本と地域医療書コーナー設置図書を継続的に整備するため、購入費を新規に図書館資料費予算に盛り込むこと。
 - v) 学術情報検索に加え、研究・業績評価にも活用できる学術データベースの新規購入を図ること (Web of Science, SCOPUS)。
 - vi) 2011 (平成 23) 年度に図書館で購入すべき雑誌についての調査を行い、電子ジャーナルは国内雑誌を含め整備を行うこと。
- (3) 学術情報リテラシー教育支援, 図書館ホームページや図書館広報の充実について
- i) 学術情報リテラシー教育支援の機会をより拡大すること。
 - ii) 図書館ホームページの英文化をトップページやOPACなどから順次進めること。
- (4) 旭川市図書館との連携による地域社会貢献について

両館で協議し、現時点で実現可能なサービスを試行という形で実施し、その試行の中で継続性のあるものを確定し、協定の締結や連携事業の拡大などを推進していく。

(5) 図書館職員の研修や研鑽の強化について

既に実施されている図書館職員の研修に加え、新たに設定される研修や講演会などにも積極的に参加する。また、新たな研鑽方法についても検討を行う。例えば、他大学図書館や旭川市図書館などでの業務体験や職員との交流を強化し、意欲や志気の高揚に努めること、など。

4.5 グランドデザインの実現

グランドデザインは2008 (平成 20) 年 3 月に策定されたが、それまで図書館事業の改革を推進してこなかったわけではない。策定作業段階から前倒しで着工し実施したものと今年度実施しているものがある。それらについて主なものを紹介しておく。

2007 (平成 19) 年度中に実施した事業として、i) 医学古文書 (メディカル・アーカイブス) 展示コーナーの設置 (8 月) と 5 回の展示事業、ii) インターネット・情報検索コーナーの設置とパソコンの増設 (8 台) (9 月)、iii) 地域医療書コーナーの設置と地域医療書の配置 (10 月)、iv) 学術情報データベース (Web of Science と SCOPUS) の導入に向けての無料トライアルの実施と検討 (12 月～翌年 3 月)、v) 学術情報リテラシー教育支援における実績と今後の充実に向けて、2 名の図書館職員が学内特別講師の称号を授与された (2 月)、がある。

2008 (平成 20) 年度になってから (8 月末日現在) は、策定内容と実施計画に沿って以下のことを実施している (以下の説明は前項 4.4 の項目番号に一致)。

- (1) i) 狭隘化解消の面からも緊急性が高いため、7 月に図書館の資料を緑が丘書庫 (近隣の職員宿舎を書庫として転用) に移動、ii) ~ iv) 利用者閲覧机に個別照明を設置した他に 2009 (平成 21) 年度以降の施設・設備整備や衛生環境及び環境整備のための具体的計画を策定する「図書館施設・設備の再配置を検討するワーキング・グループ」(施設・設備 WG) を図書館委員会のもとに設置し、実現に向けた検討を開始しており、年次計画として図書館委員会に答申する予定。
- (2) i) 2008 年から電子ジャーナルタイトルを約 4,200 に増加、ii) 一般教養書の選択について講座等の調査を実施中、iii) と iv) について、予算を確保し出版状況を確認しながら逐次選書、v) Web of Science と SCOPUS の両方の学術情報データベースの契約を開始 (8 月)、vi) 価格や購読条件などの情報を収集中。
- (3) i) これまで実施してきた独自企画の説明会や、学部講義に加え、大学院講義も追加して担当、ii) 英文化に先立ち利便性向上を目指したりリニューアルを計画しているが、本格実施は大学のホームページ整備計画 (広報企画委員会が策定) に沿って実行。
- (4) 旭川市図書館との連携事業 (試行) について合意。その事例として共催の講演会を実施予定。さらに現在、相互貸借の実施に向けて検討中。

5. まとめ

グランドデザインは、「ローマは一日にして成らず」の格言に然り、冒頭で述べた通り 5 年を目途とした比較的長いスパンで予定し、推進している。また、新事業を策定しただけでは「絵に描いた餅」であるが、これらの策定事項については実行しているところである。今後、この策定内容に多少の修正や見直しは必要となってくるかもしれないが、図書館の一通りの整備がこれらの方向性に沿って実施される予定である。

グランドデザイン策定は、現学長からの指示によるものであるため、平成 16 年度から実施している本学の中期目標・中期計画には、その策定方針や策定内容に直接関わる事項は載せられていない。しかし、そこにはすでに①図書館の施設整備の充実によ

る利便性の向上, ②社会貢献としての道内の医療従事者への図書館の24時間利用実現, の2項目が挙げられている。平成20年度の本学年度計画には, ①に沿った形で, 「旭川医科大学図書館改革のグランドデザインに基づき, 図書館の設備の充実に努め, 利便性を高める」を図書館改革の目標として掲げている。

このグランドデザインが大学から公認されたことで, それまで実現困難と思いきみ半ば諦めかけていたり, 先延ばしにしたりしていた様々な改革が実現に向けて動き出し, すでに完了しているものさえある。多くの大学では, 事業計画の規模が大きいくほど, 実施体制や経費の面で理解を得ることは容易なことではない。しかし, 幸い本学では, それらの多くを実行に移すことが可能になっており, 中心となる図書館職員も, 今は将来を見据え輝きをもって日々励むことができている。事業計画のほとんどは予算措置の必要なものであるが, グランドデザインには実施に必要な経費などについては具体的には明記していない。おおよその経費や見積についてはすでに了承済みではあるが, 今後, 策定事項の進捗状況と本学の情勢を見ながら協議を重ね, 柔軟に対応してもらおう予定である。

現在グランドデザインにより進めている改革事業によって, 本学の教育・研究・診療への図書館の支援体制がいっそう整備されていくことになる。一方, この担い手の中心である図書館職員のモチベーションも向上し, 積極的な姿勢が現れてきている。この相乗効果を最大限に盛り上げ, グランドデザインを着実に遂行して, さらに本学の発展に貢献できることを目指している。

注と参考文献

- 1) 北海道大学附属図書館. 附属図書館新営構想に関する報告書～21世紀をひらく大学図書館をめざして～(平成10(1998)年3月). (オンライン), 入手先 (<http://www.lib.hokudai.ac.jp/koho/hokoku/shinei.html>), (参照2008-9-12)
- 2) 京都大学図書館機構. 京都大学図書館機構の基本理念と目標(2007年4月17日). (オンライン), 入手先 (<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/about/>

index.php?content_id=15#top_of_pico_body), (参照2008-9-12)

- 3) 関西大学財務管財局. 大学部門事業計画6. 学術情報収集事業. (オンライン), 入手先 (http://www.kansai-u.ac.jp/zaimu/past/h17_jigyoukeikaku/h17daigakubumon.html), (参照2008-9-12)
- 4) 旭川医科大学図書館. 附属図書館自己点検・評価のための利用者アンケート報告(平成16年3月報告). (オンライン), 入手先 (<http://acesv.asahikawa-med.ac.jp/info/anketo-2003.html>), (参照2008-9-12)
- 5) 旭川医科大学図書館. 旭川医科大学図書館利用者アンケート2007集計報告. (オンライン), 入手先 (<http://acesv.asahikawa-med.ac.jp/info/news-2007-025.html>), (参照2008-9-12)
- 6) 文部科学省科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会・学術情報基盤作業部会. “学術情報基盤の今後の在り方について(報告)平成18年3月23日”. (オンライン), 入手先 (http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/06041015.htm), (参照2008-9-12)
- 7) 逸村裕, 竹内比呂也編. 変わりゆく大学図書館. 東京, 勁草書房, 2005, 232p. (ISBN 4-326-00029-5)
- 8) 大串夏身. 図書館の可能性. 東京, 青弓社, 2007, 216p. (ISBN 978-4-7872-0035-8)
- 9) 日本図書館情報学会研究委員会編. 学術情報流通と大学図書館. 東京, 勉誠出版, 2007, 217p. (シリーズ図書館情報学のフロンティア, 7), (ISBN 4-585-00290-1)
- 10) 田坂憲二. 大学図書館の挑戦. 大阪, 和泉書院, 2006, 225p. (ISBN 4-7576-0394-0)
- 11) 旭川医科大学. 旭川医科大学教育改革のグランドデザイン. (オンライン), 入手先 (http://www.asahikawa-med.ac.jp/bureau/gakusei/grand_design_20071114.pdf), (参照2008-9-12)
- 12) 旭川医科大学図書館. 旭川医科大学図書館改革のグランドデザイン. (オンライン), 入手先 (<http://acesv.asahikawa-med.ac.jp/info/news-2007-029.html>) (参照2008-9-12)

<2008.9.17 受理 おがわ さとし 旭川医科大学教務部図書館情報課長, あさの いずみ 旭川医科大学教務部図書館情報課情報管理係長, いとばやし まゆこ 旭川医科大学教務部図書館情報課情報サービス係>

OGAWA Satoshi, ASANO Izumi, ITOBAYASHI Mayuko

Formulation of the Grand Design for Reform of the Asahikawa Medical College Library: Its Process and Outline

Abstract: Asahikawa Medical College Library settled on its "Library Innovation Grand Design" in March 2008, based on a literature review of academic research libraries, student support materials specific to Asahikawa Medical College, and the results of a user survey conducted in November 2007.

With the leadership of the college president, the project included a detailed five year action plan, and received the approval of the university. We expect that the increased motivation by library staff will enable us to provide academic library support for education, research, and clinic services. This paper provides an overview on the "Library Innovation Grand Design". from its conception to implementation.

Keywords: library innovation / library management / long-term planning / surveys / grand design